令和7年度 長野市農業振興審議会 議事録（概要）

開催日時 令和7年7月17日（木）午前10時から午後12時10分まで

開催場所 長野市役所第一庁舎7階 第一・第二委員会室

出席者 委員10名、傍聴3名、事務局（市職員）15名

- 次 第
- 1 開会
 - 2 あいさつ
 - 3 新任委員紹介
 - 4 自己紹介
 - 5 議事
 - (1) 長野市農業振興アクションプランの実施状況について
 - (2) 長野農業振興地域整備計画 総合見直しについて
 - 6 その他
 - 7 閉会

【議事（概要）】

議事（1） 長野市農業振興アクションプランの実施状況について

資料1-1、1-2、1-3に基づき事務局から説明

<質議>

（委員）

資料1-3、6ページの指標の状況について。指標は93.4%で未達である。

全国的にりんごの生産は右肩下がり。市として、長野市りんごのブランド価値の維持・再生に向けて、これまでどう取り組まれ、今後どのように取り組んでいくのか。

（事務局）

これまで、新わい化の苗木の補助などを実施し、生産拡大に努めてきた。また、物産展等でPR活動を実施するとともに、令和6年度には、市内ホテルの朝食でりんごを提供するなどの取組を実施した。今後も引き続き、各種の取組でブランドの維持に努めていく。

（委員）

りんごが伸び悩んでいるのには、高密度栽培が遅れていることにも原因があるのではないか。

（事務局）

高密度栽培は、単位面積あたりの本数を今まで以上に多くして、効率的に栽培する方法。取り入れるにあたり、良い面・悪い面の両面がある。りんごについては、継承者も少なく危機的な状況であることも踏まえ、農業研修センターで、今年度から新たにりん

ごの研修を開始したところ。

(委員)

ヘーゼルナッツ振興について。JAの中に、ヘーゼルナッツについてチームを組んで情報交換できるような部会がない。農林部として(部会設置に向け)今後働きかけなどをしていくのか。

(事務局)

ヘーゼルナッツについては、栽培方法など未知の部分が多い。今後、県の農業農村支援センターとも連携しながら、栽培に関する知見、エビデンスを蓄積していく中で、(将来的には)農協への部会設立についてもご相談させていただくなどしながら、生産拡大に努めてまいりたい。

(委員)

ヘーゼルナッツは黒星病の寄生する木とも言われている。また、消毒をしなくとも良いと宣伝するような人もいる。(近隣のりんごなどに)病虫害が出た場合には、市の責任にもなりかねないので、よく確認してから推進すべきでないか。

(事務局)

消毒がいらぬなどの風評は打ち消していくとともに、栽培のエビデンスを皆さんに情報提供できるように、手引きのバージョンアップも含めて、しっかりと進めていく。

(委員)

農業青年協議会の会長をしているが、会員の約4割は野菜農家。アクションプランは果樹が中心で、野菜に関して(の振興策)が載っていない(と感じる)。高温対策などの問題もあるが、地産地消に向けて、野菜からのアプローチも検討してほしい。

(事務局)

資料1-1、40ページに、アクションプランのNo.18として「野菜振興」について記載しており、果樹に限らず振興を進めている。今後、第3期のアクションプランを定める際には(高温対策など)生産者の困りごとに、さらに寄り添った対応をしていく。

(委員)

自分は共和地区でりんごを栽培している。報告の資料(1-3)では、いろいろな良い数字が出ているが、共和地区では終わりが見えていないと感じている。農業は自分の代で終わりという人がほとんどで、後継者がいる家も数えるくらいしかない。地域を何とかしたいという思いはあるが、高齢でできない。共和地区は「ふじまつり」など県外から沢山の客が来る地域。農家任せでなく長野市のブランドとして守ってほしい。

(事務局)

指標のうち、作付面積の数値は、JAとも協議しながら作成しており、ぶどう、桃は良いが、りんごは減少しており、危機的な状況である。市として今後、現在のアクションプランに定める事業を実施しながら、りんごの生産拡大に努めていくとともに、各地域の作付け状況、ブランド等を守っていくために、今後どう取り組んでいくべきか（生産者等と）相談しながら、第三次アクションプランに反映させていきたい。

(委員)

長野市全体で、かつて（りんご生産が）良かったところが、廃れてきている。一方、時間をかけて後継者が入ってきている地域もある。（全て市任せでなく）今後、市として、園協として、個人として、それぞれできること、やるべきことの整理が必要ではないか。

(事務局)

長野市の地域活動支援課が窓口となって募集する地域おこし協力隊のうち、農業ミッションで地域に入ってくる方もいる。行政で全てできれば良いが、行政と地域の皆さんとで、ともに汗をかかないとなかなか進んでいかない部分もあるので、そういった方も活用しながら、しっかり地域の課題を解決していきたいと思う。

(委員)

都市計画にも関係してくるが、長野市ではコンパクトシティを進めているので、（まちの）中心部に若い人が集まって、（山間部等の）不便な農村部に子供が増えない。最近、（山間部等への）バスの減便の話もあるが、その辺（の整合）をどう考えるのかお聞きしたい。

(事務局)

車で圃場まで行くなど、そういった（山間部等の）環境も含めて農業をやられる方もいらっしゃる。先ほどの委員のお話を含め、農業をやられるうえで不安も沢山あると思うが、国は一昨年からの地域計画の策定を市町村に義務付け、本市でも市内33地区において、これから10年後の農業を考えましょうということで、話し合いを行っている。地域で考えて地域で解決する（という考え方）。今後、人口減少が進む中で、これまでどおり、同じやり方で全ての農地を残すというのは無理なので、例えば子育てしやすい地域にしながら、圃場を集約したり、スマート農業用の機械が入ってやりやすくなるとか、そういったことを行政だけで決めるのではなく、農家や地域の皆さんと一緒に、行政も入って膝を突き合わせながら考えていく。そういった枠組み、仕組みの中で、トータルで農業が振興されるような施策を進めていければと考えている。

(委員)

SNSの活用について。投稿がほとんど報告のみで、これは一体誰が見るのか、という投稿が何件も見受けられる。これは市役所の若手職員が作っているのか。

(事務局)

そうである。

(委員)

農業政策課の若手職員で発信をしているということだが、せっかく長野県には信州大学農学部があるので、そこの20代、大学1年生2年生などと協力して、職員だけではなく、学生を取り入れた広報チームを作ってはどうか。広報がうまくいけば、若手の農業者も増えるし、SNSを有効に使うべき。フォロワー数も全然少ない。その辺の考えをお聞きしたい。

(事務局)

若手職員であっても、なかなか若者に響くような情報発信ができていないのご指摘であり、市としても、学生と協力をしながら広報できれば、とても良いと考えているので、今後とも、どのような発信方法によれば的確に伝わるのか、研究、勉強しながらSNSの活用に努めていきたい。

(委員)

加えて、ただの報告みたいな投稿は、全然面白みがない。ストーリー性などが重要。例えば農業者の1日などは、若い人は絶対に知らないと思うので、そうした発信から共感性を持たせるような。そうした工夫をしながら、投稿・運用を進めてほしい。

(事務局)

今までSNSすらやっていなかったところ。今回、ご指摘いただいてありがたく思うし、是非、(信州大学ではなく、)委員が在籍する大学で、この提案を形にしていただけはないか。まずはやれる範囲で、お金をかけずに。新たなチームを作っていければ、すごく面白いものになるのではと思う。

(委員)

大学に相談したいと思う。信州大学にも聞いてほしい。

(委員)

私は農業経験がないので専門的なことはわからないが、先ほどのりんごの件。りんごづくりに興味があっても、畑がないので作れないが、オーナー制を取り入れれば、都会から興味がある人は来てくれるのではないかと思うがいかがか。

(委員)

私はオーナー制度をやっているが、手がかかって大変である。ある程度若い世代の方々が、(SNSなどの)インフラを含めて情報を有効に使っていけば、もう少し楽にできる可能性がある。

(事務局)

オーナー制度の導入については良いアイデアと感じている。ただし、園地は個人の所有であるので、オーナー制度を導入してもらえるよう市として促すことは可能である。

市内にそのような制度を導入している地区もあると聞いているが、そうした市内の状況も含めて、今後研究していく。

議事(2) 長野農業振興地域整備計画 総合見直しについて

資料2-1、2-2に基づき事務局から説明

<質議>

(委員)

パブリックコメントはどのような方法で行うのか。

(事務局)

広報ながのや市のホームページ、農業政策課や支所の窓口等で計画を案内、閲覧できるようにして、FAXやメール等でご意見をいただく予定としている。

(委員)

パブリックコメントで挙がってきた意見に対してはどのような対応になるのか。

(事務局)

いただいた全ての意見に対して、計画の文言等に反映する、しないを判断し、その理由を含めた対応状況と、パブリックコメントの意見反映後の計画を審議会に諮る予定である。

<議事全体に対する質疑>

(委員)

先ほど話にあったワインブドウの振興は6次産業化も含めて成功事例である。りんごの生産が落ち込んでいるとのことだが、例えば、りんごを使ったお菓子の製造であったり、ヘーゼルナッツも単品で食べられるものでないので、6次産業までどうやってもっていくか。6次産業化に対する補助等、長野市の考え方を教えていただきたい。

(事務局)

ヘーゼルナッツの6次産業化について。現在、ヘーゼルナッツは苗木の導入補助などをしながら生産拡大を進めている。今後の収穫を見据えて、加工して付加価値を上げるため、加工施設や加工用機械導入の支援などが考えられる。長野市に来てヘーゼルナッツを味わっていただくことに加え、外に向けて販売していくことも大事であり、今後研究を進めていく。

(委員)

令和6年度の地域計画の説明会のあと、地域盛り上げ隊という40代を中心とした男女10名くらいで仲間を作り、その中で女性中心の会も作っている。資料1-3の8枚目には、たまたま若穂地区が出ているが写真には女性と若い人が映っていない。女性と若い人が出てもらえるよう市で書面だけでなく声かけをお願いしたい。

(事務局)

今後も女性、若者含めて、できるだけ多くの方に参加いただけるようにしていきたい。地元の農業委員をはじめとした方のご協力をいただいて声がけいただければありがたい。

(委員)

アクションプラン⑤農業・農村に対する理解の促進の中に、地産地消・食文化伝承という項目がある。自分は「食と農のネットワーク」という団体にいるが、会員も農家が減って、農業をやってみたいという方や、食文化に興味のある方の加入が多い。団体では食文化の伝承という中で、地域に出向いて講座などの活動をしているので、(そのような機会があれば)声掛けいただきたい。

(事務局)

「食と農のネットワーク」では様々な事業を実施いただいていると承知している。食文化の伝承を地域で担っていただいている方も減少しているが、市でも重要な取組と考えているので、引き続きご相談させていただきながら、食文化が継承できるように進めていく。

以上